

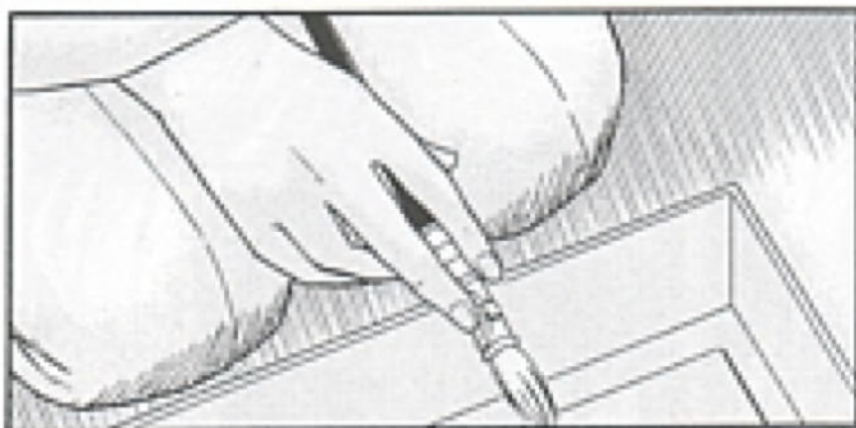
蠟燭燈幻
十六世紀



愛の華

幻燈蝶蛾十六世紀





大兄貴に
そっちの趣味が
あったとはな！



は
は
は
。。。。

ふーん





仲良く
しようぜ

—ふふっ

大兄貴





おいお前!!

何なんだよ
さつきから!!

オレは男色の
趣味はねえぞ!!

へ?

うっそ
だろ

ウソじゃねえ!!
本当だっ!!

じゃあアンタ
何でオレを仲間
に
したんだ?

オレを欲しが
る奴は
たいていコレ
が
目的なんだぜ?

アンタ
変わってんなー

あははははっ

てめエ
なア……ん

バキッ

ふー

ーま、
とにかく

お前を仲間にしたのは
その強さを見込んだ
から、それだけだ！

よしは
覚悟あり

どん。

夜伽の相手なんざ
しなくて
いいんだよ

お前も部屋へ戻って
さっさと寝ろ！

……

明日は
早いぞ

これから色々と
働いて……

♡

……

おい……

お前人の話
聞いてるか！？

ふんふん……

バキ……

ふんふん

寝所で
抱き合ってる時は…

こういうの
ナシにしようぜ

オレ
知りたいんだ

七人隊の首領が
どんな男なのか

……

相手を知る
一番手っ取り早い
方法は――

寝てみる
事さ



裸で抱き合ってる
時にまで、
自分を飾る奴は
まずいない



蛇骨…

たいてい本性を
現してくる…



……



男の抱き方なんざ
知らねエ!!!



ふふ...

女相手の時と
大して変わらないよ



なあ、
見せてくれよ

あんだ...
どんな風に
オレを抱くんだ?



どんな顔して
果てるんだ？

どんな声
出すんだ？

この手で、体で
オレをいかせた
後…

あんたはその顔に
一体どんな表情を
浮かべるんだ!?

なあ…

見せて
くれよ

大兄貴



ほの暗い燈籠の
明かりの下



うすぼんやりと
照らし出される
その白い肢体

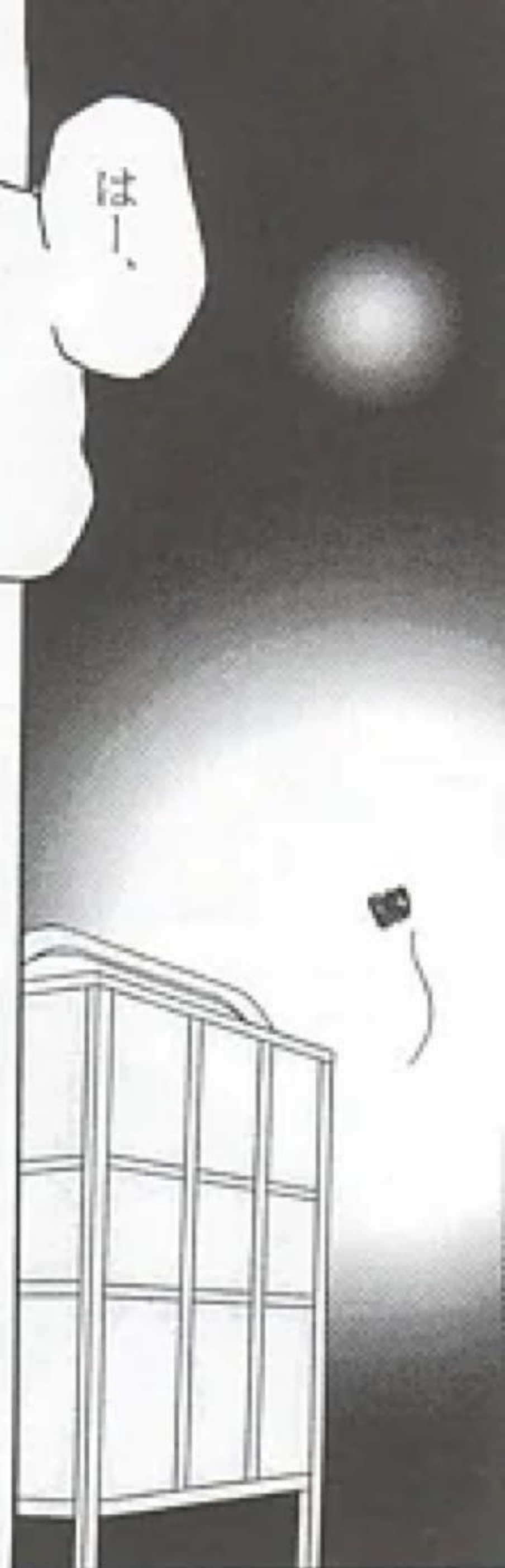


男の体を
美しいと感じた
のは……



生まれて初めて
だった







そうだなー、
まあ……



……
ふーん

似たような事
してた時期も
あったかな



オレは……

あんたと違って
ガキの頃から
鬼神の如き強さを
持ってた訳じゃない



これはこの乱世を
一人で生き抜いていく
ために身につけた……



オレなりの
処世術さ

……



寝所でいい思い
させてくれた相手を
邪険にする奴は
いないからな

ははっ……

そりやそうだ

それに
油断させるときや寝首も
かきやすいしなく

あっはっは〜♡

これぞまさしく
一石二鳥♡

.....
お前なあ〜い
それが目的かい?

ふふっ

大丈夫だよ
兄貴...

オレ、あんたには
そんな事しない

言っただろ?

相手がどんな奴かは
寝てみればわかるって



オレあんたの事
気に入った



ずっと
ついてくよ



あんたになら
.....

安心して命を
預けられそうだ









帰すかよ



兄貴…



ふふっ



もう少し
つき合え

…

何だよ兄貴、

男色の趣味は
無いんじゃないか？



……

お前となら
構わない



はっ……



あっ……

ん……

お前と
なら……



なあ
蛇骨



お前……



誰とでも
こういう事
するのか？

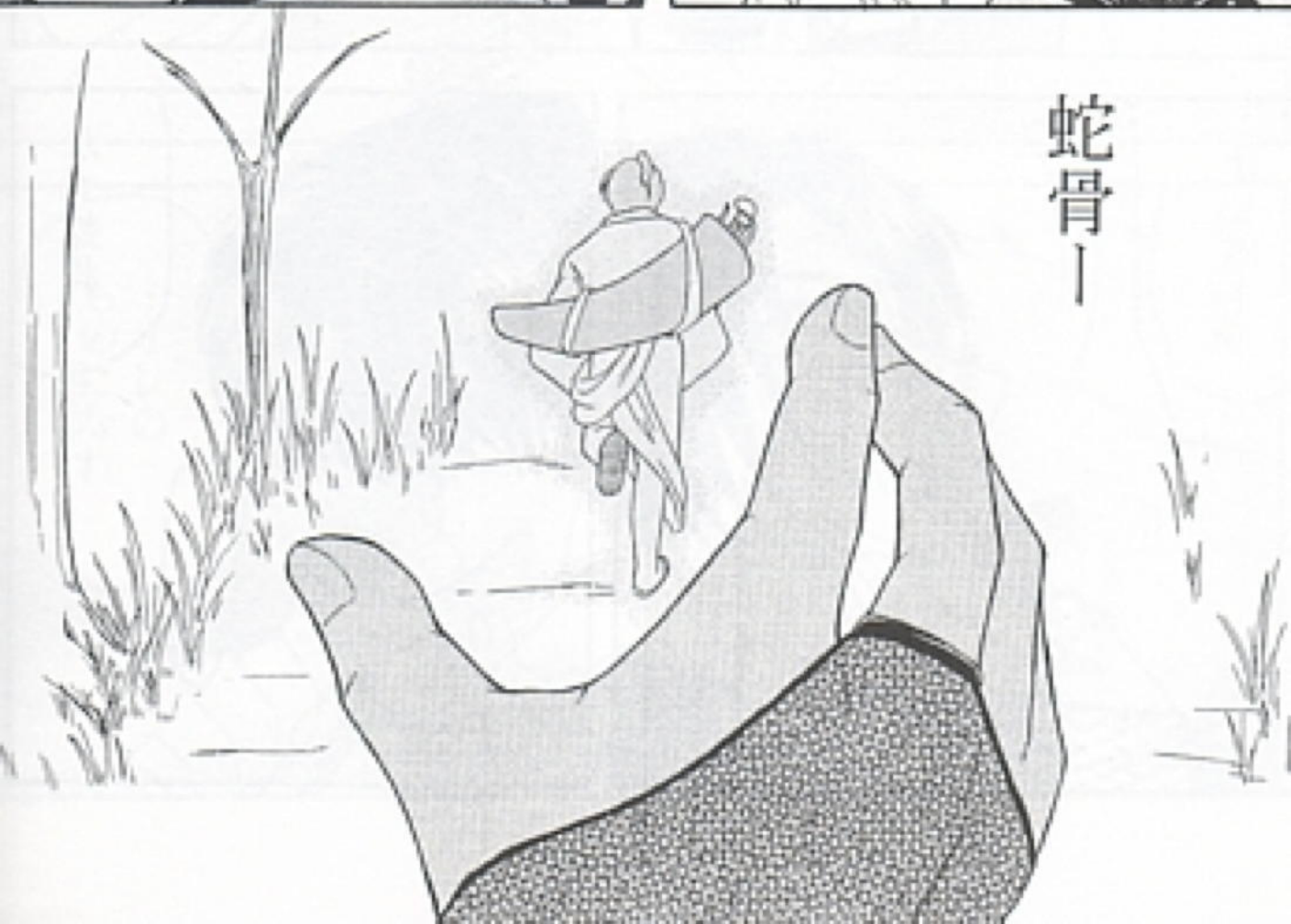














蛇骨…

オレの
ものになれ



オレだけのもの
なつてくれ